

|日本初| 自治体による実証を開始

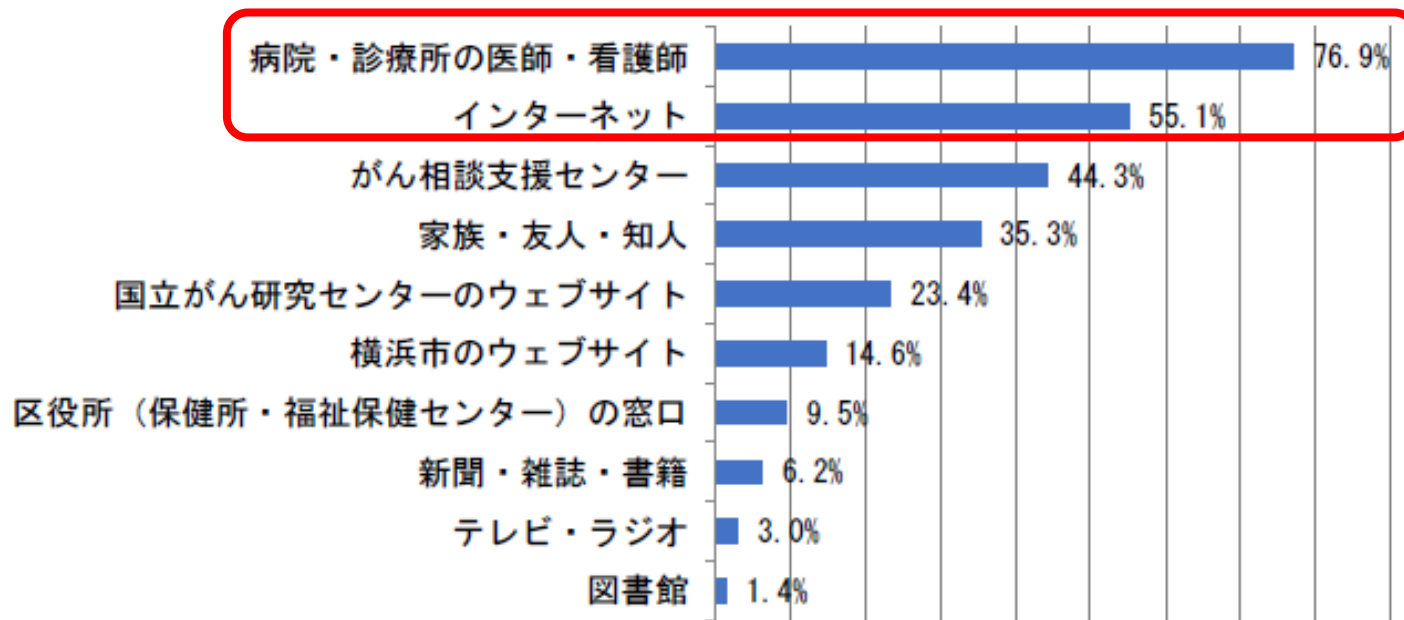
生成AI × がん相談サービス

2025年9月26日
市長定例記者会見

がん患者・家族が抱える情報量と不安



がんと診断された時の情報収集について



令和5年横浜市がんに関する市民意識調査

AI搭載対話型相談サービス 「ランタン」を利用すれば…



安心して療養できる環境に

本日のゲストスピーカー



一般財団法人在宅がん療養財団

Japan Home Care For Cancer Patients Foundation

ジェイホック

(JHoCC)

こだま たつひこ

会長 児玉 龍彦 様 (東京大学名誉教授)

【略歴】

東京大学医学部卒業

東京大学医学部附属病院勤務

マサチューセッツ工科大学 (MIT) 研究員

東京大学先端科学技術研究センター教授などを歴任

エルウィン・フォン・ベルツ賞などを受賞 (1998年)

A I 搭載対話型相談サービス「ランタン」



「ランタン」の開発について

がん難民をゼロに

我が国では1年に100万人近くががんに、生涯に二人に一人が罹患する。
早期がんの治療が進歩しても年に38万人が亡くなる、最大の死因である。

早期がんが、再発・転移する進行がん、治療耐性の末期がん、に進化する。
グローバルに最新の治療を知りたい。

住んでいる家で生活の質を保つ最適のケアを受けたい。
必要とされる医師も、看護・介護も、ケアも変化する。

ネットのがん情報は利害関係が多く何を信賴していいかわからない。

「最新」「最適」の信賴できる情報を住んでいる場所にあわせて得たい。
多領域の専門家が集まり、公正中立の情報で、足元を照らす「ランタン」。
最新の情報技術で、いつでも、どこでも、誰でも、何回でも、相談できる。



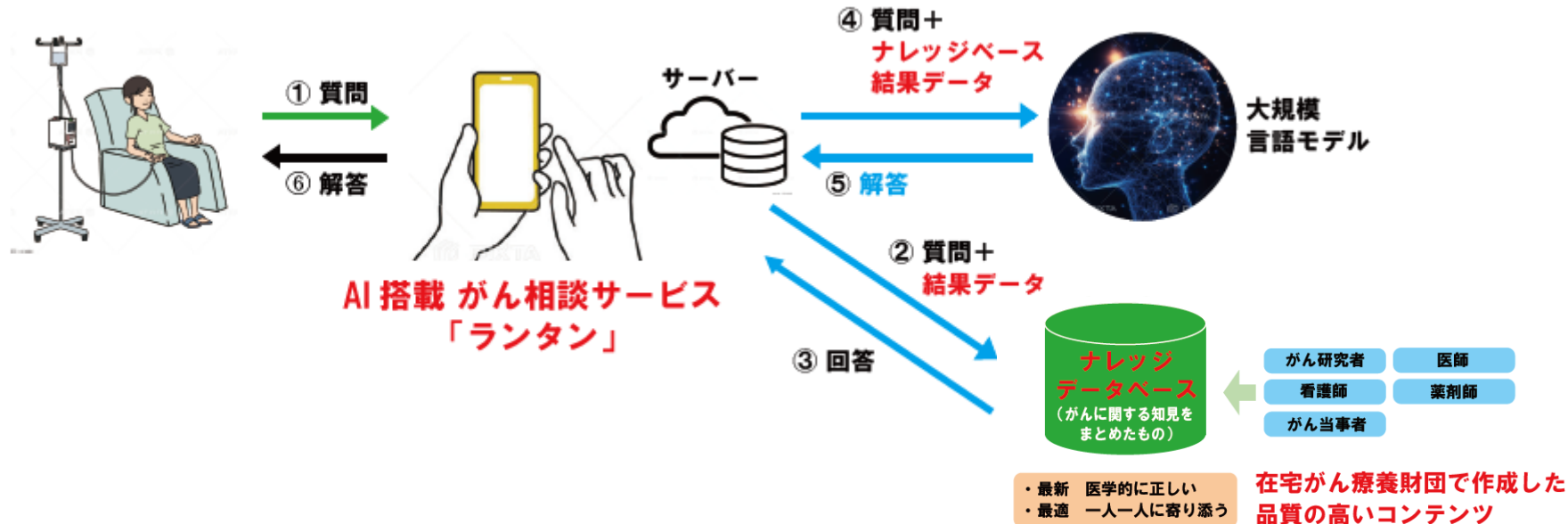
◆がんになって感じたことは、
がん治療は情報戦だということです。
「手術をするのか」「抗がん剤をするのか」「放射線をするのか」「何もしないのか」、それを決めるのは、医師ではなく自分です。抗がん剤の副作用や体調不良に対応するのも自分です（もちろん、医師からも様々なアドバイスはありますが）。
あれよあれよという間に、病状は進み、自分が受けている治療法は果たして正解なのか、この病院でいいのか、なぜこの検査を受けるのか、身体の不調にどう対処したらいいのか、最期はどうなるのか、日々、様々な疑問が沸き起こってきます。情報（＝知識）は力です。そして希望です。希望があれば前向きに治療に向き合えます。（50代女性）

「ランタン」のRAGの仕組み：

RAG＝検索拡張生成、回答の精度を向上させる技術

RAG(検索拡張生成) とは

- ・ 生成AI(LLM)に外部知識（ナレッジベースなど）を組み合わせ、より正確な回答を生成する技術
- ・ これにより、回答内容がより専門的かつ正確になるため、事実とは異なる内容や文脈と無関係な内容の出力がもっともらしく生成される問題（＝ハルシネーション）をより回避しやすくなるというメリットがある。



RAG搭載データ



専門家によるチェック済みの知識体系（信頼性の高い情報）

■在宅がんウィット（在宅がん療養財団が作成したQA検索サイト）



- [在宅療養 記事一覧](#)
- [訪問看護 記事一覧](#)
- [訪問介護/地域ネットワーク 記事一覧](#)
- [看取り 記事一覧](#)
- [新型コロナウイルスへの対応 記事一覧](#)
- [胃がん 記事一覧](#)

- [嚥下困難/誤嚥 記事一覧](#)
- [排尿困難/頻尿 記事一覧](#)
- [排泄ケア 記事一覧](#)
- [ストーマケア 記事一覧](#)
- [清潔ケア 記事一覧](#)
- [重粒子線治療 記事一覧](#)



- [ゲノム医療 記事一覧](#)
- [病的バリエーション 記事一覧](#)
- [がん薬物療法 記事一覧](#)
- [肺がん 記事一覧](#)
- [呼吸困難 記事一覧](#)
- [咳とたんのケア 記事一覧](#)
- [オピオイド 記事一覧](#)

■国立がん研究センターのがん情報サービス（今後図表も）

■米国NCCN(National Comprehensive Cancer Network)に日本の実情を加味したデータ

■追加済データ

- セカンドオピニオン
- 在宅療養とリスクマネジメント、食道がん、膵臓がん、卵巣がん、直腸がんなど

■今後の予定：薬剤データ、がんの治療・療養に関する地域情報

デモンストレーション

「ランタン」活用のメリット＜患者・家族＞

これまでは…

- ・ 治療や薬の説明が専門的すぎて、理解できず不安に
- ・ がん相談支援センターの存在を知らず、相談機会を逃している
- ・ 診察時に何を質問しよいかわからず 情報収集を自己責任で行う必要がある



Lantern-AI を使うと…

- ・ 正しい情報を伝えて、専門用語をわかりやすく解説し、自分のペースでの理解を可能に
- ・ がん相談支援センターの情報も案内するため利用促進につながる
- ・ ランタンで、質問の仕方を相談できる

「ランタン」活用のメリット＜医療従事者＞

これまでは…

- ・ 治療法や薬剤の進歩が早く、
最新情報の把握が大変
- ・ 多忙のため患者対応に時間が
割けず、情報提供が不十分



Lantern-AI を使うと…

- ・ 国内外の最新ガイドラインや治
験情報を統合し、常にアップデ
ートされた情報を提供
- ・ ランタンを補助的に使うことで、
説明の補足や確認が容易になり
業務の負担軽減による質の高い
ケアや信頼関係が向上

今後の展開



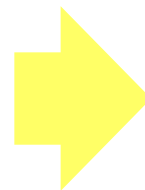
財団との連携協定締結 (本日)



市民・医療関係者への周知活動
利用者のフィードバックによる改善



全国展開に向けたモデル都市としての役割



安心して
過ごせるまちへ